

総会が例会として扱われることについてのアンケート(結果)

アンケートについて

2023 年度から、四日市青年会議所では「総会」を「例会」として実施しています。

この運営方針には、次のような背景があります。

「定款第 17 条により、月 1 回の例会開催が必要であること」

「会員数や人手の減少に対応し、持続可能な運営を実現するため」

「形式にとらわれず、目的に合った例会を行う柔軟な運営の考え方」

◆ 理事会での扱い

総会の議案は、内容に変更がないことが前提です。

そのため、他の例会と比べて準備が簡潔で、

「協議 1 回 → 審議 1 回で理事会承認」

という流れで進めています。

必要なことをしっかりと行いつつ、

負担を減らした運用を実現しています。

◆ この運用のねらい

この運営方針は、ただの「手間の削減」ではありません。

「限られた時間でより良い運営に取り組めるようにすること」

「本当に必要なことに集中できる形にすること」

を意識しています。

◆ アンケートの目的

今回のアンケートでは、皆さんのが聞こながら、

「今後どんな形がよいのか」

を一緒に考え、次年度以降の会運営の参考としていただく。

※上記、アンケート画面の説明文より

【アンケート結果】回答数 33 名

本項は、総会後に、正会員 33 名から回収したアンケートをもとに、

近年の「総会＋例会」運用を振り返り、事実の確認と、

回答傾向から読み取れる考え方の方向を記録するものである。

全体として、総会を例会として扱った運用は、会の手続きが滞りなく進むことと準備、運営の負担を軽くすることの両面で、概ね肯定的に受け止められていた。

設問1. 総会を例会として開催する今の形について、どう思いますか？

今の形でちょうど良い	24名(72.7%)
もっと簡潔にしてもよいと思う	4名(12.1%)
もう少ししっかりした例会にしてほしい	2名(6.1%)
よくわからない	3名(9.1%)

現行の形で良いが多数。一方で少数からより簡潔に、あるいはもう少し「例会らしさ」がほしいという声もあった。

肯定側:「間延びすることなく、時間配分が適切だから。」「四日市青年会議所の会員数からして合理的である」

簡潔化:「第一回臨時総会では投票の待ち時間を省くため、Google フォームを活用するなど検討する必要がある。」

例会らしさ側:「例会は学びの場であるからこそ、総会の本質を理解できる設えを整え、普段触れる機会の少ないメンバーにも学びを提供する必要がある。」「これを例会と呼ぶのはよくわからない」

読み取り:肯定的記述として、「現在の会員数、委員会数に適した形」「必要事項が網羅されている」「簡素で良い」「進行がスムーズ」「足す、引く部分は見当たらない」「理事選出に特化していくよい」といった趣旨が並ぶ。留保として、「学びがあってこそ例会」「本来は総会と例会を分けるべき」といった指摘も含まれる

設問2. 現在の総会(例会)の運営スタイルについて、どのように感じますか？

必要な手続きに特化されていて、合理的で良い	25名(75.8%)
毎回の位置づけや演出に、もう少し工夫があってもよい	4名(6.1%)
内容によって、もっと柔軟に運営を変えてよい	2名(12.1%)
よくわからない	2名(6.1%)

必要なことをきちんとやれているという評価が中心。対して、内容に応じた柔らかさや伝わりやすさを求める声がある。

肯定側:「必要なことを、きちんとやっているから。」「スムーズに進行、運営ができていると思う」

工夫側:「もっとドキドキしたい」

柔軟側:「第二回臨時総会は肅々と進行する一方、事務局による学びの時間を加えることも一つのあり方である。」

読み取り:正当な手続きは担保されている。満足度の差は、全体像の見えやすさや要点の伝わり方に関係している。

設問3. 年間の例会が総会によって一部代替されていること(年12回→実質9回)

によって、運営全体の負担がどう変化したと感じますか？

運営全体として、無理のない体制になってきたと感じる	20名(60.6%)
ある程度は軽減されたと思うが、もっと改善できる	7名(21.2%)
むしろ課題があるように感じる	5名(3%)
よくわからない	1名(15.2%)

負担は軽くなったが多数。いっぽう、もっと良くできるという声と、判断がつかないという声も一定数。

軽くなった側:「各委員会の担当例会の数からして適切だと感じたから。」「時間も有効になされています。」

もっと改善側:「今の状態が悪いとは思いませんが、毎年毎年改善や変化させていくことは必要」

むしろ課題側:「本来、総会という性質上別ですることが望ましい。」

読み取り:肯定的記述として、「総会は肅々と進めつつ、事務局発信の学びの時間をエッセンスとして加える」という運用案が示されている。留保として、「学びは例会と分けるべき」との原則論が併記されている

。

【アンケート全体の検証】

妥当性:総会を例会として扱う方法は、限られた人員で会務を確実に進めるという今年の事情に合っていた。

少数意見の含意:求められているのは、派手さではなく、「今日は何が決まって、何を共有したか」が分かること。この点に対する期待が、簡潔化と「例会らしさ」の両方の言葉で表れている。